





決勝戦啓光学園—大阪工大高 前半25分、相手陣22m付近の混戦から啓光学園T B 徳野が左オープンをつきゴール前まで突進、トライにつなぐ

逆転、また逆転の好ゲーム。花園は大阪に包まれて優勝を争った。...

「花園」の頂上 歓喜の凱歌



決勝戦で初トライに沸く啓光学園応援団

燃えた！魅せた！啓光デー



優勝の喜びをかみしめる啓光学園フIFティーン

選手・応援団 最強スクラム

フォワード苦戦するフィールドからは「アー」という悲鳴が響いた。...

選手たちに知事がエール。花園で優勝の舞台を踏んだ。...

Scoreboard table showing match results for various teams including Keikoku University, with columns for team names and scores.



監督 記虎 敏和。この試合は我が新しい歴史の第一歩である。...



啓光学園理事長 ホルヘ・フランケサ。これは人間の心の底に愛。...

もすごい闘志だった。仕事をやめてくれた。...

精神的な成長促す勝利。この一戦は啓光学園ラ。...

OBから市民から 祝賀オンパレード。祝賀会が開催された。...

校内に立てられた優勝旗。選手と応援団が旗を手にした。...





全国高校ラグビー

優勝戦サイド

「よっ、行ける」。優勝戦でキックオフのボールをキャッチした大阪工大高・古川新一選手(3年)を強烈なタックルで倒した啓光学園の竹中康友主将(3年)は、古川選手のジャージをつかんだまま、そう思った。

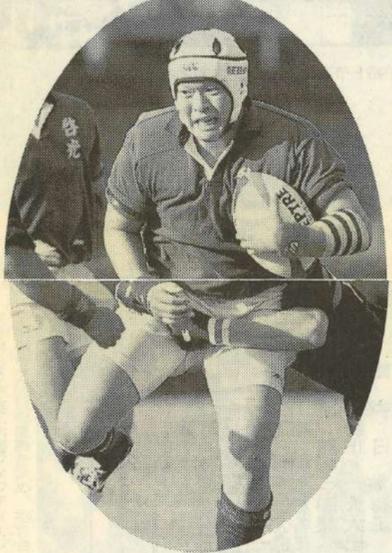
足の痛みを克服 猛タックル実る

竹中主将

竹中主将は最初のタックルにかけた。祈るように相手の腰をめがけて飛び込んだ。「大きな壁に立ち向かうには、このひたむきさが必要だったんや」

この一発で啓光学園ディフェンス陣もそれを思い出した。前半、自陣ゴール前で劣勢が顕著だったが、1トライにしのいで前半26分の同点トライにつなげた。

後半20分過ぎには、大阪工大高にいったんゴールラインまで攻められたが、激しいタックルで5人も相手を押戻し、直後の逆転トライを呼んだ。「最後の試合で、最高のディフェンスができた」。竹中主将は会心の笑みを浮かべた。



決勝戦で突進する啓光学園FW竹中康友主将

啓光学園が守り勝った。後半6分、NO8川村が相手のキックを両腕でキャッチして逆転トライ。後には自らで防戦15分はSH高倉がシンビンで10分間退場して、14人対15人となったが、14人の低いタックルで佐賀工の猛攻をトライに抑えた。佐賀工は前半12分にSO永田が負傷交代した影響で攻撃がFWの縦突破に偏ったが、SH藤戸が後半27分にトライ。しかし藤戸が約22秒左中間の同点ゴールを外して惜敗した。

敵の前進阻む "大波"の防御

インゴールまで敵は、一時進出が盛んでSHを欠いていた。代りにBのキックが、竹中主将の「はき手」と呼ぶWTB田村が、激しいタックルで抑えていった。啓光は4点リードの後15分、4次、5次と繰り返す攻めのしつこい攻撃は、約5分間止まらなかつた。だが、絶え間なく押寄せる大波のような啓光の防御は、佐賀工の前進を許さなかつた。

啓光はこの直前、シンビン(シンク)による一時進出が盛んでSHを欠いていた。代りにBのキックが、竹中主将の「はき手」と呼ぶWTB田村が、激しいタックルで抑えていった。啓光は4点リードの後15分、4次、5次と繰り返す攻めのしつこい攻撃は、約5分間止まらなかつた。だが、絶え間なく押寄せる大波のような啓光の防御は、佐賀工の前進を許さなかつた。

第3戦 15-13 佐賀工



対佐賀工戦 後半15分、自陣ゴール前で佐賀工の攻撃を懸命に食い止める啓光学園バックス

耐えて反撃 啓光の底力

啓光は、相手の反動で得たPGをそっくり決めて7点差。結局、佐賀工が終盤に再び仕掛けたが、3大会連続の準決勝進出を決めた。啓光監督は「DFが今のチームのテーマ。いかに守り抜くか、またも守り抜いた」と誇りに満ちた表情で話した。

啓光監督は「DFが今のチームのテーマ。いかに守り抜くか、またも守り抜いた」と誇りに満ちた表情で話した。

佐賀工(佐賀) 反5 15計13

啓光(啓) 反15 4計5

△主審 藤元信一

▽HFB 藤戸、永田

▽FW 山本、藤原、永次、藤原、山本、藤原、永次、藤原

▽TB 山本、藤原、永次、藤原

▽FB 山本、藤原、永次、藤原

▽RW 山本、藤原、永次、藤原

▽LB 山本、藤原、永次、藤原

▽SH 山本、藤原、永次、藤原

▽SO 山本、藤原、永次、藤原

▽PR 山本、藤原、永次、藤原

▽SR 山本、藤原、永次、藤原

▽HT 山本、藤原、永次、藤原

準決勝 41-5 天理

啓光学園のスピード、連続攻撃が、タックルの良い天理を振り回し、一方を続け、Bもよく前へ出て縦横にボールをこなす。前半4分、11分にタックルからの逆襲を起点に一気の



対天理戦 前半4分、天理陣ゴール前のモールから啓光学園H高倉が左サイドをつきトライ

「横への新展開」功を奏す

天理フラインクの狙いを、啓光は「横への新展開」功を奏す。啓光監督は「DFが今のチームのテーマ。いかに守り抜くか、またも守り抜いた」と誇りに満ちた表情で話した。

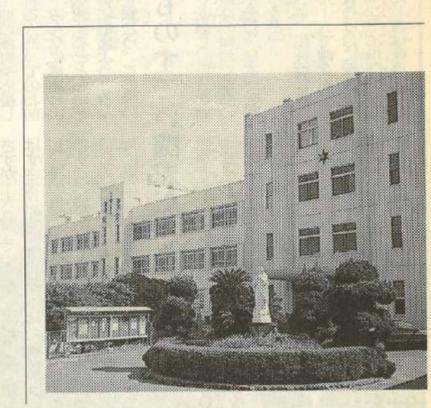
という意識統一ができていた。その言葉通り、啓光FWは前半だけで相手ボールを3回奪った。

Table of university advancement status (過去3年間) for Keio Gakuin, listing various universities and their years of advancement.



優勝を決め、記号監督を肩上げる啓光学園フラインク

Table of Keio Gakuin rugby club members' career paths (1998年在学者数), listing various universities and the number of players who went there.



学校沿革

- 1950年 クラレチアン会、プリスキ神父ら来日。
1957年 学校法人啓光学園・啓光中学校認可。ホセ・ガルデアノ神父を校長に、ルイス・ズサン神父を理事長に開校。
1960年 啓光学園高等学校開校。
1961年 新校舎(現5号館)落成。
1964年 駐日ヴァチカン公使カーニャ大司教来校。
1967年 バドミントン部 第15回私学大会優勝(以降、78年まで優勝)。全国高校ラグビー大会 初出場。2号館竣工。
1974年 クリア・サイエンス両コース制開始。
1975年 クラレチアン会総長アントニオ・レキサ神父来校。
1977年 3号館竣工。
1982年 クラレチアン会総長グスタボ・アロンソ神父来校。水泳部 大阪私学大会総合優勝。
1985年 体育館講堂、6号館竣工。
1992年 全国高校ラグビー大会 初優勝。